

# 市民自治講座のご案内

## 【開催趣旨】

今そこにある、自治と民主主義の危機に抗して、市民の自立と自律、自主と自治、共感と共生（連帯）を回復していく必要があると思います。このためには、市民が小さな空間を足がかりに、そこからコミュニティや都市を再生していくことを通して、深刻化する社会の問題に立ち向かっていくほかありません。その基礎には市民が自治の哲学をつくりあげていくことが必要です。

今回企画した「市民自治講座」は、これまでに蓄積されてきた人類の知恵から学ぶとともに、熟議を通して、新しい市民自治の姿を思い浮かべ、地域にねざした市民社会のつくり方を学び、市民の手で明日の自治をともに築いていくことをめざします。

## 第Ⅱ期 トクヴィルと《平等》の政治力学（全3日）

講師 富永 茂樹 氏（京都大学名誉教授、前京都芸術センター所長）

講師よりのメッセージ：

アレクシス・ド・トクヴィル(1805-1856)は、今でこそ『アメリカのデモクラシー』が岩波文庫で読めますが、それでもまだまだ日本でよく知られるまでにはいたっていません。明治期からすでに翻訳もなされ、地方分権論などにも注目がなされてはいましたが、とりわけ第2次大戦後にあらためて紹介されたときには、アメリカ経由の誤解も少なくはありませんでした。そうした誤解を解きほぐすことから始めて、もうひとつの著書である『アンシャン・レジームとフランス革命』も視野に入れながら、現在のわが国にあってこそ、この政治哲学者を読み返す意義についてお話したいと思います。

日程とテーマ(内容概略は裏面参照) いずれも、2016年(平成28年)

第1日目 9月24日(土) 中央集権、地方自治、中間集団  
第2日目 10月29日(土) 平等の力学—その逆説  
第3日目 11月19日(土) トクヴィルと近・現代の日本社会



参加:どなたでも参加できます。

時間:13:30~16:00(全日程とも同じです)

会場:第1~2日目 CANVAS谷町(大阪市中央区谷町2丁目) 地下鉄谷町線天満橋・谷町4丁目徒歩5分  
地図はこちらをご覧ください。 <http://www.osakavol.org/10/access/index.html>

第3日目のみ、国民會館(天満橋) <http://www.kokuminkaikan.jp/access/>

参加費:1日1,000円(当日払)

問合・申込:NPO政策研究所 npa@post.email.ne.jp suguta@post.email.ne.jp

記載事項 お名前、ご所属、連絡先、参加回(例:すべて、第○回)

主催:市民自治講座実行委員会(特定非営利活動法人NPO政策研究所、大阪市政調査会で構成)

懇親会:いずれかの会の後、講師を交えた懇親会を開催します。(会場でご案内します)

お願い:☆なるべく3回連続してのご参加をお願いします(単発の参加も可能です)。

☆下記の参考図書を読んできていただきますと、ご理解がさらに進むと思われます。

- ・トクヴィル『アメリカのデモクラシー 第一巻上・下、第二巻上・下』全4冊(松本礼二訳、岩波文庫)
- ・富永茂樹『トクヴィル 現代へのまなざし』(岩波新書)

第1日目（9月24日（土）） 13:30～ 於 CANVAS 谷町

### ■中央集権、地方自治、中間集団

トクヴィルにとって社会における平等の進展は、普遍的かつ持続的で、人の力の及ばないことがらであった。だがそれは同時にいくつもの問題をももたらす。そのうちのひとつが、個人の無力化と対になった中央集権の深まり、また他方でこれにたいするさまざまな制度（地方分権、タウンシップ、さらには中間的な諸団体）が果たす役割であった。この地方と中央の問題は現在もお未解決なことが少なくない。それを再考するために『アメリカのデモクラシー』とりわけ第1巻をあらためて読みなおすことが必要である。

第2日目（10月29日（土）） 13:30～ 於 CANVAS 谷町

### ■■平等の力学—その逆説

平等の力学は政治のみならず社会のさまざまな分野で作動し、個人主義の問題、家族の縮小、全体としての社会的な紐帯の弱体化など、ある種の逆説をふくむ深刻な結果をいくつももたらす。そしてそれらはいずれもが、実は中央集権と地方分権の問題にも深いところがかかわっている。こうした問題を主として扱う『デモクラシー』の第2巻、そしてトクヴィルのもうひとつの著書である『アンシャン・レジームとフランス革命』での議論にも目を向けながら彼の政治哲学が現代社会に投げかける示唆を受け止めることにしたい。

第3日目（11月19日（土）） 13:30～ 於 国民會館（天満橋）

### ■■■トクヴィルと近・現代の日本社会

トクヴィルは実は、その著書のなかかでわが国については一言も言及してはいない。だが日本の政治と社会の歴史を振りかえるならば、福澤諭吉が『デモクラシー』を読んだ西南戦争の頃からの中央と地方のあいだの問題、また第2次大戦後にアメリカからもたらされたはずの「民主主義」が現代の競争社会につながることをはじめとして、トクヴィルの問題提起が当てはまることからはけっして少なくない。明治維新时期から現在のグローバル化へといたる歴史をトクヴィルの視点から概観することを試みたい。

#### ■参考図書（事務局作成）

☆トクヴィル「アメリカのデモクラシー」第一巻上・下、第二巻上・下（松本礼二訳、岩波文庫、2005～2008）

トクヴィル「旧体制と大革命」（小山勉訳、筑摩文庫、1998）

トクヴィル「フランス二月革命の日々 トクヴィル回想記」（喜安朗訳、岩波文庫、1988）

☆富永茂樹「トクヴィル 現代へのまなざし」（岩波新書、2010）

☆富永茂樹「理性の使用」（みすず書房、2005）

松本礼二・三浦信孝・宇野重規編著「トクヴィルとデモクラシーの現在」（東京大学出版会、2009）

宇野重規「トクヴィル 平等と不平等の理論家」（講談社メチエ、2007）

宇野重規「デモクラシーを生きる—トクヴィルにおける政治の再発見」（創文社、1998）

松本礼二「トクヴィルで考える」（みすず書房、2011）

ジャック・クーネン=ウィッター「トクヴィル」（白水社文庫クセジュ、2000）

レオ・ダムロッシュ「トクヴィルが見たアメリカ—現代デモクラシーの誕生」（白水社、2012）

ラリー・シーデントップ「トクヴィル」（光洋晃房、2007）

第I期 『民主主義再考：原理的に考える』 講師：岡本仁宏氏（関西学院大学法学部教授）は、2016年3月～5月開催です。